

# 議会運営委員会・議会改革推進特別委員会行政視察報告書

令和6年(2024年)11月22日

境港市議会  
議長 永井章 様

議会運営委員会  
委員長 森岡俊夫

議会改革推進特別委員会  
委員長 柗 康弘

下記のとおり行政視察を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察期間	令和6年10月31日(木) 9:00~11:30			
2 視察先 及び内容	【愛知県 瀬戸市議会】 ① 瀬戸市議会BCPについて、ICTを利用した市議会防災訓練について ② 市民との意見交換(せとまちトーク)を政策サイクルの基点として活用する取り組みなどの議会広聴と議会広報活動について			
3 視察委員	氏名	議会運営委員会	議会改革推進特別委員会	備考
	森岡 俊夫	◎	○	議運委員長
	松本 晶彦	●	○	議運副委員長
	荒井 秀行	○		
	加藤 文治	○		
	平松 謙治	○	○	
	柗 康弘	○	◎	改革委員長
	田口 俊介	○	○	
	安田 共子	○		欠席
	吉井 巧		●	改革副委員長
	伊藤 康弘		○	
景山 憲		○		
4 視察経費	合計(11名) 443,700円(一人当たり40,336円) ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て			
5 委員長報告	別紙のとおり			

## 委員長報告

下記のとおり報告します。

### ◆視察先対応者

【瀬戸市 市議会事務局】

### ◆内容

(1) 瀬戸市議会 BCP について、ICT を利用した市議会防災訓練について

#### 【質問項目】

- 瀬戸市議会で策定された「議会 BCP」の内容について
- 議会防災訓練で想定された災害の種類や規模など、災害発生時に議会としてどのようなリスクを想定されているか
- 議会災害対策支援本部の構成と役割について
- 市の総合防災訓練と連携して、議会防災訓練を実施されているが、訓練実施までの執行部との協議について
- 防災訓練の際、Zoom を利用しての情報共有訓練も実施されている。運用に關しての管理について
- 議員への防災服の貸与や支給、議会としての防災備品（ヘルメット等）の確保、議会棟の防災設備改修等について

#### 【内 容】

瀬戸市議会の業務継続計画（以下 BCP という）は、平成 23 年 3 月の東日本大震災を契機として、BCP の策定が全国的な広がりを見せる中、市が策定する地域防災計画や BCP 以外に、議会独自の BCP 策定の必要性がクローズアップされてきたことから、瀬戸市議会においても、大規模災害時に備え、迅速な議会機能の回復と市民ニーズを反映した復旧・復興に早期に取り組むことを目的として策定されました。

大災害時において、被災者のニーズを的確に反映した審議・決定を行う責務を有する議会の役割と「会議に出席できる体勢を整える」ことや「被害状況を市対策本部に伝える」と同時に「支援状況を地域住民に伝達する」などの議員の役割を明確化し、非常事態に即応した活動に心掛ける内容となっており、その他、災害時の市との関係、想定する災害、議会災害対策支援本部の設置及び災害対策会議の開催、非常時優先業務、災害時の業務継続体制と行動基準、感染症発生時の対応、情報の的確な収集・提供・共有、災害の備え、議会業務継続計画発動の解除及び議会災害対策支援本部の解散、議会業務継続計画の運用などが詳細に規定されています。

#### 【所 感】

瀬戸市では、南海トラフを想定した市全体の総合防災訓練を実施されており、各議員が地元自治会の訓練に参加する形と並行して議会防災訓練を実施、議会機能を維持することを目的に各議員がタブレット端末とスマートフォンを連動させ、議員からの安否報告、状況報告など議員の役割を果たすためのツールとして ICT が活用されています。

議会災害対策支援本部は、想定された自然災害や大規模火災、大規模な事故、新型コロナウイルス、大規模テロの発生が予測される場合に設置され、議会機能の回復

や維持を図ることに加え、議員から報告される災害状況を取りまとめます。あわせて、市が設置する災害対策本部と災害状況の共有を図ります。

情報共有のアイテムとして定期契約した Zoom により、現地から議会災害支援本部へ状況報告を実施。その Zoom の活用に当たり、議員研修も実施しており、本市議会においても、WEB 会議などの実地訓練の必要性を感じました。

また、議会 BCP 計画策定の目的を達成するにあたり、議員への防災服、ヘルメットなどの防災備品は市の予算で購入し、貸与されているなど、本市議会でも同様な対応をすべきではと考えます。

本市では、市全体の防災訓練には至っておりませんが、各自治会が実施している防災訓練と連携した議会防災訓練等を計画するなど、大規模災害時における議会・議員の役割を共有認識するとともに議員全員が、ICT を理解し、活用・研修をすることの必要性を感じたところです。

## (2) 市民との意見交換（せとまちトーク）を政策サイクルの基点として活用する取り組みなどの議会広聴と議会広報活動について

### 【質問項目】

- 平成 25 年度からの「議会報告会・意見交換会」を「せとまちトーク」にリニューアルした経緯や工夫について
- YouTube、Facebook、インスタグラムなどの SNS での発信について
- ケーブルテレビ(GCTV)の経緯と費用、製作体制について
- 「せとまちトーク」に関連して、進め方などの講習会の開催について
- 「せとまちトーク」の参加者募集の方法について

### 【内 容】

瀬戸市議会は平成 25 年度から「議会報告会・意見交換会」を開始され、令和元年には「せとまちトーク」としてリニューアルされ現在に至っています。また、平成 28 年度からは瀬戸市議会広報広聴協議会が設置され、「議会だよりの編集」や「ホームページに関すること」など担当する「広報部会」と「せとまちトーク」や「アンケートに関すること」を担当する「広聴部会」と役割が整理されています。

「広報部会」では、議会だより、ホームページ、Facebook、「せとまちラジオ放送」(FM)の広報活動に加え、ケーブルテレビ(GCTV)を活用した議員自らの議会情報番組の作成や本会議・委員会のライブ中継に取り組んでおられます。また、ライブ配信は、Ustreamにより配信されていたが、平成 28 年度からは YouTube 配信に切り替えをされておられ、様々な媒体での議会広報を推進されています。

「広聴部会」では、市民との意見交換会(せとまちトーク)を 8カ所で開催し、その意見等を集約されたものを広聴部会、政策検討会議(入口)、常任委員会、政策検討会議(出口)、広聴部会の順で検討・議論を重ね、市民との意見交換会で改めて報告するとともに瀬戸市議会ホームページ等に掲載し、広く市民に周知するとされています。これまでに「せとまちトーク」から条例制定に結び付いた事例として「瀬戸市自転車の安全で適正な利用の促進及び自転車の活用推

進に関する条例の制定について」があります。

意見聴取方法の課題として、令和元年11月の「せとまちトーク」ではフリーテーマで多くの意見が出されたが、その仕分けに時間が費やされ、その背景や考えに至った経緯が聞き取れなかったものがあり、また、令和4年11月では常任委員会の調査研究課題をテーマにしたことで意見の仕分けなどの時間がなくなるなど課題が解消された一方で、議会基本条例で掲げる多様な意見が聴取できているのかといった点を疑問視される意見も出されていました。

令和6年11月に開催される「せとまちトーク」では、テーマありとテーマなしのテーブルを設けることで、条例や要綱に則った最も効果的な意見を聴取するなど、目的に沿うための方法も模索されておられました。その他にも参加者の固定化の課題があることから、開催を平日夜だけでなく、昼間の開催や週末開催などの工夫をされるなど市民意見に基づいた政策サイクル実現への取り組みを積極的に実施されていました。

#### 【所 感】

広報としての役割として、委員会のYouTube配信や「せとまちラジオ」(FM)など本市議会広報活動において取り入れるべき課題として認識することができました。

広聴においては、「せとまちトーク」での成果・課題は本市議会の広報広聴の考え方や「市民と議会の懇談会」の運営などで参考になるものでありました。

「せとまちトーク」での参加者が固定化しているなど本市同様の課題も抱えており、現在も試行錯誤しながら進んでいるという生のお話を聞くことができました。

本市議会でも昨年度は7地区平日夜の開催に加え、日曜日午後の開催、今年度は上期に1ヶ所で(日曜午後)開催し、下期には追加の開催を予定するなど様々な開催方法を検討しながら市民がより参加しやすい環境を目指しています。意見を集約するだけでなく市民の意見を議会側が政策として反映できる政策サイクルのようなことは本市議会でも必要であり、今後の仕組みづくりが必要と感じました。